

(6) 北 陸



北陸地域では、景気は緩やかに持ち直している。

- ・ 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。
- ・ 個人消費は持ち直している。
- ・ 雇用情勢は持ち直している。

(注)下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(_は上方に変更、 _は下方に変更)。

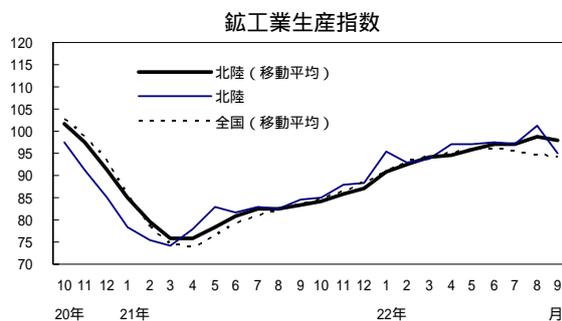
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 22 年 8 月)	今回 (平成 22 年 11 月)	
景況判断	持ち直している	<u>緩やかに持ち直している</u>	
鉱工業生産	持ち直している	<u>緩やかに持ち直している</u>	
住宅建設	減少	大幅に増加	

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産は緩やかに持ち直している。

一般機械は、減少したが、自動車産業向け金属工作機械や、海外向けの建設機械、繊維機械が引き続き堅調に推移している。電子部品・デバイスは、半導体素子・集積回路などの電子部品の生産が堅調で増加した。化学は、横ばいだが、高水準で推移している。金属製品は、ビル向け建材が不調で減少した。繊維は、衣料向けの機能性素材や自動車内装向けの非衣料繊維等が好調で増加した。



- (備考) 1. 17年=100、季節調整値。北陸の最新月は速報値。
2. 全国及び北陸の太線は後方3か月移動平均。

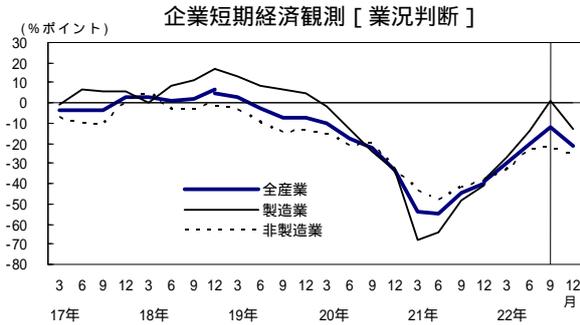
域内主要業種の動向(季節調整値、前期比) (%)

	付加価値 ウェイト	生産		出荷	在庫
		4~6 月期	7~9 月期	7~9 月期	7~9 月期
一般機械	16.2	20.4	1.4	-	-
電子部品・デバイス	15.8	8.5	2.0	-	-
化学	14.5	8.5	0.0	-	-
金属製品	9.2	1.0	3.9	-	-
繊維	8.5	2.7	2.9	-	-
鉱工業	100.0	3.4	0.7	-	-

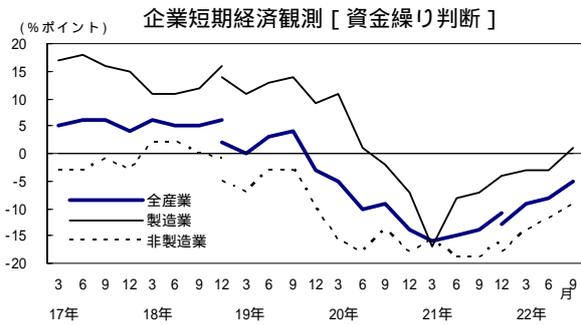
- (備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い15業種。
2. 7~9月期は速報値。
3. 出荷及び在庫指数は公表されていない。

(2) 企業動向の業況判断は「悪い」超幅が、資金繰り判断は「苦しい」超幅がそれぞれ縮小している。

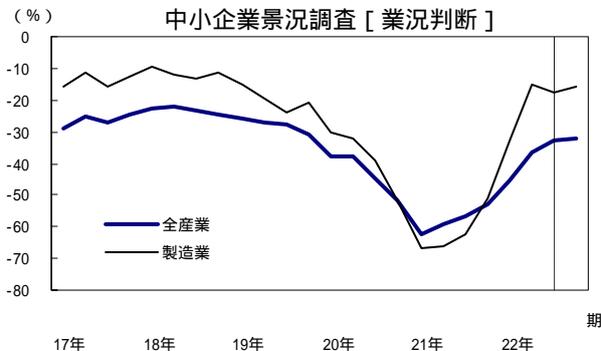
企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。22年12月は予測。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
18年12月および21年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。22年 期は見通し。
中部地区。

景気ウォッチャー調査(9月)[企業動向関連(現状)]

「ここ最近の円高とエコカー補助金の終了による影響で、車関係で特に繊維関連、カーシート関連の貨物が減少している(輸送業)」など、「やや悪くなっている」とする回答が多く見られた。

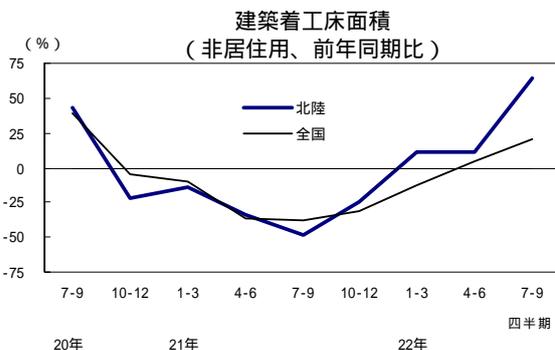
(3) 22年度の設備投資は前年度を大幅に上回る計画となっている。

企業短期経済観測調査 [設備投資(9月調査)]

	(前年度比、%)	
	21年度実績	22年度計画
全産業	33.4	23.3(2.8)
製造業	35.6	32.2(4.8)
非製造業	28.6	0.6(3.7)

(備考) 1. []は前回(6月)調査結果。

2. 21年度実績はリース会計非対応ベース、22年度計画はリース会計対応ベース。



2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直している。

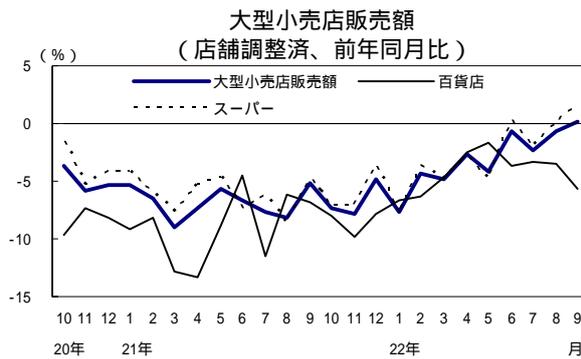
大型小売店販売額

百貨店は、7月は、食料品は猛暑により、飲料品等が好調だったため、前年比の減少幅が縮小した。8月は、衣料品は、猛暑により、飲食料品が7月に続いて好調だったが、秋物衣料の動きが鈍かったため、前年比の減少幅が拡大した。9月は、残暑により衣料品の動きが鈍く、前年比の減少幅が拡大した。

スーパーは、猛暑、残暑の影響で秋物衣料の動きが鈍かったものの、飲食料品の動きが好調であったことや、たばこの駆け込み需要等により前年比減少幅が縮小した。

景気ウォッチャー調査(9月)[家計動向関連(現状)]

「好調な商品はエアコン、冷蔵庫、カラーテレビなど猛暑、家電エコポイントによるものであり、そのほかの商品は相変わらず厳しい(家電量販店)」など「変わらない」とする回答が多くみられた。

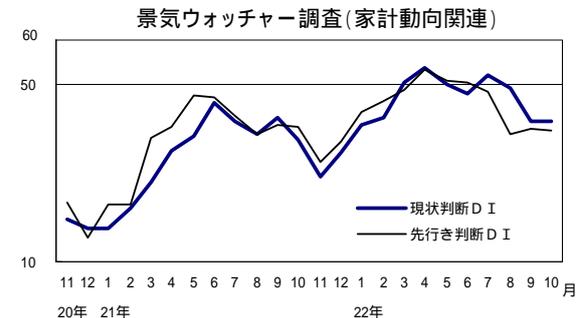
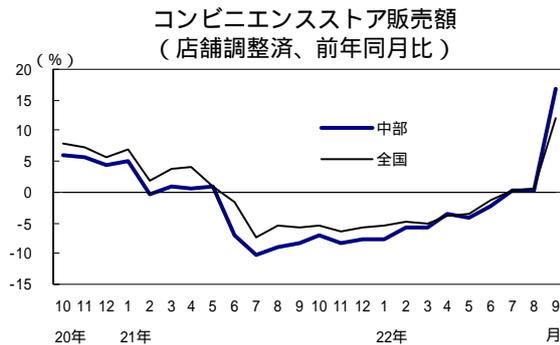


	(前年同期比、%)			
	21年10-12月	22年1-3月	4-6月	7-9月
大型小売店	6.5	5.8	2.5	1.0
百貨店	8.5	5.9	2.6	4.1
スーパー	5.8	5.7	2.5	0.1
乗用車	24.1	23.6	24.2	8.1
景気ウォッチャー	33.7	44.5	50.6	47.5

(備考) 1. 大型小売店は店舗調整済。

2. 景気ウォッチャーは家計動向関連の現状判断DIの3か月平均。

3. 乗用車は乗用車新規登録・届出台数。



(2) 住宅建設は大幅に増加している。

貸家、持家、分譲で前年を上回ったことから、全体でも大幅に増加している。

(3) 公共投資は22年度累計で見ると前年度を下回っている。

